

弘前藩日記目録

(三)

弘前藩政史研究会編

(延宝三年 三月十五日 のつぎ)

3. 齋庵、おかのへ使者
 4. 詰座敷二向寝番仰付
 5. 碓ヶ岡着座(午下刻)
 6. 津輕左京より飛脚
 7. 之昌院より使者
 8. 本陣の床、奥へ三尺八上ぐべき旨を仰出
 9. 今朝三擲小荷駄押の仕様悪鋪故、以後此得べき旨仰出
 10. 機嫌鏡として玄蕃以下四人飛翰
 11. 疋田長左江門下着、奉書持参
- 十六甲戌日 霽
1. 1、2. 左京より菓子、鴨 左京家来へ贈
 3. 左京登駕の節、白沢まで人馬を出さる
 4. 碓ヶ岡横目等八名へ左京より金子、上下
 5. 松前兵庫家来の使礼へ返報(他三)
 9. 宿所登駕(卯刻)、諸士御目見(他一)
 11. 大館登宿へ着座、宿主菓子献上、宿主へ金子
 12. 佐竹石見方へ呉服二呈送
 13. 右より使者(他三)
- 十七乙亥日 晴
1. 在々の茶屋同受酒停止、郡奉行へ申渡

2. 主馬登城

3. 小姓組の二名、御快行列不届につき知行没収
 4. 小知行組頭通條にて無礼、知行取放
 5. 登駕の更、大風のため、このなきの舟渡出来ず、引返し、綴子村に逗留
 6. 右により、飛根宿泊予定の左京、坊沢に一宿(他二)
 9. 綴子宿主に金子、上下、逗留に付外に一両二歩
- 十八丙子日 晴
1. 左内登城
 2. 卯刻綴子登駕、辰刻このなきで舟渡、荷上場の宿に金子
 3. きりいしかはる舟頭に金子
 4. 飛根登宿へ金子、上下
 5. 申刻盛岡に首座
 6. 道中にて御鷹
 7. 道中にての金銀受取等の吟味につき仰出
 8. 六日江戸登の飛脚、盛岡御宿へ到着
- 十九丁丑日 晴
1. 素庵へ使者、銀子二十枚
 2. 次郎市登城
 3. 卯上刻盛岡登駕、宿主へ金子、上下
 4. 八森の宿主、盛岡にて有献上、よって金子下賜

5. 日刻大河屋宿着、宿主へ金子、上下
6. 大河船頭へ金子

7. 未刻湊着座、窪田町奉行村端迄罷出御目見

8. 10. 窪田より使者へ遣扱、全使者へ小袖

11. 窪田へ使者

以院内で馳走人へ小袖を賜うにつき書を調達

廿戌寅日 賜

1. 堀伝左江内堂男子平産の由、申登す

2. 飛脚を道申まで差登す

3. 高倉兵右江内登城

4. 卯上刻湊発駕、宿主へ金子、上下

5. 境登宿、宿主へ金子、上下

6. 今日半途にて雀献上の餉指二人に境にて銭八百文

7. 境にて雀献上の餉指に銭五百文

8. 加りわのの宿主有献上につき境にて金子

9. 10. 豊嶋船頭、同所中渡舟頭、石濱船頭に金子

11. 申下刻花立泊宿に着座

廿一日卯日 賜

1. 在々困窮につき諸給人の代地の芋入のことにつき郡

奉行へ申渡

2. 藩士所持の仁義礼智信之書付、御意留置の上ところ

今日相渡

3. 松前兵庫より飛札、飛脚に金子

4. 五日江戸発の飛脚、盛岡にて御状提出の上、今日到着

5. 傍嶋帯刃登城

6. 卯下刻花立発駕、大曲火事出来につき遅く発駕、宿

主へ金子、上下

7. 花立にて雀献上の餉指へ銭五百文

8. 午刻種手直着、宿主へ金子、上下

9. 十三日江戸発の飛脚種手登宿へ到着、書状差添えて

取前へ

10. 小嶋伝兵右の鷹、横手前、湯湯前に鴨をとる。明日

精進日の上、金山、新城迄は鳥も有向敷の向、鷹の

御供無用とし、明日湯沢より鷹師を回元へ歸し、以

後半途にて鳥を取ること禁止の由申渡

11. 岩崎河渡の舟頭へ金子

12. 湯沢御宿へ未右刻着座

13. 左京馳走人二名の湊より湯沢までの機嫌等に匹礼

廿二庚辰日 賜

1. 式日寄合

2. 卯中刻湯沢発駕、宿主へ金子、上下

3. 日中刻院内登宿着、宿主へ金子、上下

4. 同所にて窪田よりの馳走人に御達(他二)

7. 窪田よりの伝馬奉行二名に使者、院内にて上下を賜う

8. 10. 院内よりの山越の事

11. のそきより中田までの向雪のため直不自由につき

能登守雪を切りせし由、御耳に達す

12. 酉上刻、金山へ着座

廿三日 巳日 粟

1. 登城

2. 卯中刻金山発駕、宿主へ金子、上下

3. 巳中刻新城登宿に着、宿主へ金子、上下

4. 5. 同所へ戸沢能登守より使者、右返札の使者

6. 5. 9. 宿主等轉献上等(四須)

10. 尾花沢へ到着の節、町端へ松平清兵衛の使者御目見

11. 申刻尾花沢御宿へ着座、同所へ右使者阿部七郎左江門参上

12. 13. 右の七郎左江門へ上下、松平清兵衛へ使者

廿四日 日 陽

1. 武者屯西古勘定場家塚の前塀に内遣立のこゝを作事

奉行へ申渡す

2. 主馬、左門、次郎市登城

3. 卯上刻尾花沢発駕、宿主へ金子、上下

4. 巳刻六田屋着、宿主へ金子、上下(他一)

6. 未刻山形へ着座、宿主町端まで出迎う

7. 夕膳後風呂を召す、供の者にも

8. 夕膳に、外記、勘左江門、内記、藤九郎相伴

9. 10. 武頭、手廻組、小性組、歩行目付、小頭に吸物酒を賜う

11. 歩行の者廿一人に干菓子(山形まで懈怠なく御供故)

12. 例の如く道中箇条書の通り改めて申渡すため惣御供

中丞旅館に召集

13. 廿日弘前発の飛脚、廿四日山形到着、明朝発駕後に

弘前へ帰る様申付けて返状を托す

廿五日 未日 陽

1. 家中諸門出入吟味の焼印札を目付より渡すべき旨、申渡す

申渡す

2. 登城

3. 卯上刻山形発駕、宿主へ金子、上下(他一)

5. 巳刻なりけ昼宿着、宿主へ金子、上下

廿六日 甲申日 曇

1. 去十二日江戸発の飛脚、途中横手にて書状提出の上、

今日到着

2. 寄合所へ各出座

3. 辰中刻より雨、申下刻岩木河洪水、下町、御厩町へ

溢れ、家内二尺浸水、亥下刻雨風に変わり、丑刻、山

鳴動し地震の如し

4. 盛岡主膳、添田儀左江門今夜風烈大雨のため武者屯

まで罷出

5. 卯上刻湯原発駕、宿主へ金子、上下代の金子

6. 巳中刻戸沢登宿へ着、右に同じ

7. 申刻郡泊宿着座

8. 廿二日江戸発の飛脚、郡へ到着、方々よりの書状并

廿七日 酉日 陽風

1. 式日寄合

2. 卯上刻郡発駕、宿主へ同前

3. 巳中刻八丁目昼宿着、宿主へ同前

4. 昨夜着の江戸よりの飛脚の返事、今朝発駕の後出立

5. 申刻本宮泊宿へ着座

廿八丙戌日 賜霞

1. 恒例の諸士御礼

2. 昨夜露ヶ沢下町より出火、前戸村の方へ五十五軒焼失の由、同町奉行より注進

3. 江戸へ十一日振りの飛脚出立

4. 寄合所へ各出座

5. 卯上刻本宮発駕、宿主へ同前

6. 廿四日江戸発の飛脚、次の河登宿へ到着

7. 巳刻次の河登宿へ到着、宿主へ同前

8. 申刻白河泊宿へ着座、町奉行町端まで羅出御目見

廿九丁亥日 賜雨

1. 寄合所へ各出座

2. 諸給人知行の打出返置るべき由仰出、申渡す

3. 寅下刻白河発駕、宿主へ同前

4. 5. 芦野お通の前、左近より使者、同返礼の使者

6. 廿六日江戸発の飛脚焼明神へ到着、半途故昼宿にて披露

7. 午刻鍋辺昼宿着、宿主へ同前

8. 未刻丈俵泊宿着座、山城守留守督罷越し相庇の御用

承くべき旨兼而山城守申付りる由披露

1. 右留守屋へ使者

卅戌子日 賜雨

1. 玄番家来二名不届につき追放申付碓肉横目へ越山杖

2. 寅中刻丈俵発駕、宿主へ同前

3. 廿七日江戸発の飛脚喜連河登宿へ到着

4. 巳刻喜連河登宿着、宿主へ同前

5. 申上刻守郡泊宿着座

6. 廿八日九日雨喪江戸発の飛脚到着

7. 参観の際、奏への付届の書家紙飛脚をもつて遣す

8. 9. 下総守より使者、町奉行御用承くべき旨を

10. 12. 道中懈怠なく勤めし褒美として藩士、草履取に金子、銀子を

13. 歩行目付より歩行までは酒、足軽目付より六尺迄は菓子同前

菓子同前

14. 桂林院より使者、使者へ金子

延宝三并四月

一日五日 賜

1. 恒例御礼

2. 去廿九日壺田火事、二十軒焼失

3. 去月廿五日道中山形よりの飛脚到着

4. 守郡宮発駕、宿に金子、宿の風呂焼失につき金子

5. 小山の昼宿到着

6. 古河泊宿へ到着

二庚寅日 晴

1. 式日寄合

2. 乳井惣左衛門名付高百石 慶長六年九月廿七日、竟

海様(信杖)御印一箇宛駕前御覽の上返さる

3. 小児姓付坊主 同日付差登せる旨仰付

4. 古河宛駕

5. 栗橋の渡、土井帯刀の馳走役へ下され物

三辛卯日 晴

1. 妙春三年忌 隣松寺へ銀子三枚

2. 拍壁宛駕

3. 草下にて昼食

4. 5. 7. 桂林院、平蔵等より使者

8. 拍壁、草下迄町人菓子等献上

9. 草下よりの行列立(ハ)

四壬辰日 晴

1. 登城(左門、平八郎)

五癸巳日 晴 (記事なし)

六甲午日 晴

1. 去月廿三日誓の飛脚到着(他一)

七乙未日 晴 雨

1. 式日寄合

2. 綱山

3. 87参府挨拶、贈物(八十五項)

八丙申日 晴

1. 上家借用について

九丁酉日 晴 雨

1. 御本城掃除、百姓、町人足多く入る

2. 他領の米値候

久保田、米銀一匁に 二升二合 直候

庄内 同 一升五合

村上 同 九合 但五十文銭

長岡 同 一升一合 但六十文銭

柴田 同右

高田 同 一升三合

高田領内の食糧事情

柴田領分飢饉、四千人死の由

右浅尾庄次郎用事ありて越後へ罷越し時見分仕候もの

3. 弘前は銀一匁に二升三合値候

十戊戌日 晴 雨

1. 寄合所各出座(他一)

十一己亥日 晴

1. 左門登城

2. 贈り物

十二庚子日 晴

1. 帯刀登城

2. 上野にて万部御法事、その折り左に贈り物、桂林院

能登守御與様、日光御内主、御内主、久世大和守

十三辛丑日 賜

1. 牧支配仲付

2. 中川小単人、湊八左江門の上家借濟について

3. 増山兵部へ綏別として羽織三

十四壬寅日 賜風

1. 増山兵部へ吃贈る

十五癸卯日 賜霜

1. 四日江戸参の飛脚到着、参府挨拶無事相済ぬ

2. 重臣、参府無事上着の祝儀に登城(他一)

十六甲辰日 賜霜

1. 江戸へ飛脚

2. 御鷹病死

3. 5. 賜物(三)

十七乙巳日 賜霜 (記事なし)

十八丙午日 霰

1. 江戸へ使者二名發足

2. 庄兵征斎森へ

3. 次郎市登城

4. 5. 6. 贈物(三)

十九丁未日 庵

1. 参觀御礼首尾能き旨の飛脚到着

2. 林吉右江門、八日江戸参にて到着

3. 平八郎登城

廿戊申日 賜

1. 長勝寺迎出火の筋の火消番の任務、及、長勝寺、寺
庵出家へ申渡

2. 主馬、平八郎、他重臣参府御礼の祝儀のため登城

廿一己酉日 霰(こさめ)

1. 老耳、仙台領小竹浜にて破損せる材木船保管に對す
る謝礼

2. 江戸より二名到着

3. 4. 上野にて法事首尾よく贈物(二)

廿二庚戌日 晴霰

1. 式日寄台

廿三辛亥日 賜

1. 松江へ列車の如く贈物

2. 左門登城

廿四壬子日 賜風霰

廿四壬子日 賜風霰

1. 十三日参の飛脚到着

2. え旨院へ書状

3. 家庵へ書状

4. 大湯三太左江門九日江戸發足して到着

5. 去月廿六日の洪水の折の夜中見廻りの唐牛甚右江門
へ本儀の旨仰下さる

6. 十九日、徳田弥兵征家内より出火焼失の事、小頭よ
り注進

7. 平八郎登城

8. 洪水の折の衰美、祐その他、昨日の飛脚で仰下さる

廿五癸丑日 晴雨

1 鷓留について

2 堀伝左内内室男子平産(二)

廿六甲寅日 晴雨

1 須藤惣右内門、十一日江戸発足して到着

廿七日卯日 晴

1 式日寄合

廿八丙辰日 晴晦

1 恒例御礼 諸士記帳

2 御寺頭組頭任命

3 外決の鉄吹の者五人逃散について

4 松平丹後身より贈り物

5 又冒院、伊勢(神明宮)参拜

6 庄右内門登城

廿九丁巳日 晴

1 浦々役人へ手当

2 庄兵征青森より帰る

世茂十日 晴

1 寄合所へ各々出座

2 寛文九年松前伏蜂起之時の領内直路に立てた板札十

七枚の保管

延宝三年由四月

一日 未日 晴

目番 道禰庄兵衛

1 恒例御礼 諸士記帳

二庚申日 晴曇少風

1 式日寄合

2 越後柏崎之茂左内青森にて糶米の沖出の不義をす

3 作道打勘三郎浜町船頭八兵衛二人右茂左内門に組ん

で不義 庄兵征青森へ行き吟味 越山

4 注進人青森長兵衛に右内所五俵褒美

5 右堀取の者に褒美米一俵

三辛酉日 晴地震少風

1 飛脚三人、九日振江戸着と出発下命

四壬戌日 晴風

1 寄合所へ各々出座

2 去月廿四日江戸発の飛脚着

3 去月十五日御台様より平蔵大願二枚と酒舞籠の由

4 平八郎登城

5 祝言の礼 内田玄勝一家より

五癸亥日 晴

1 寄合所へ各出座

2 黒崎村善四郎出火十一軒類焼の由

3 則田安右内より豚六疋左京様の手船に納める件
青森町奉行より申来る

六甲子日 晴雷雨

1 刺刀十、爪むき十本国吉伝右内へ

2 同爪むき十本盛宗助三郎へ江戸よりさいそく

3. 頼一折二、酒井雅樂頭より

七乙丑日 陰雨 (記事なし)

八丙寅日 陽霽

1. 又昌虎の荷物下着

2. 寄合所へ各々出座

3. 平八郎登城

九丁卯日 陽

1. 板屋野木村に兵征、三月六日、同村理兵征の威破り

木を盗む

2. 三目内村平左征門去月旅人次兵征を打殺

右二名 磔刑を申付

3. 大依村長次郎、馬盗み黒石にて売る

4. 助作、町にて錢盗み

右二人 斬罪申付

5. 主馬、大道寺次郎市登城

十戊辰日 陽

1. 藩刀、高倉兵右征門登城

十一己巳日 陽少風

1. 跡右征門他三名 鱒ヶ沢河筋へ派遣

十二庚午日 陽 霽

1. 式日 寄合

2. 高湯小屋不殘焼失

3. 平八郎登城

十三辛未日 陰雨

1. 跡右征門同座の各々、鱒ヶ沢より帰る

十四壬申日 陰雨

1. 圓徳院隠居相叶い、御祝儀(三)

十五癸酉日 陰雨

1. 恒初の御礼、諸士記帳

2. 四日發足の江戸よりの飛脚着

去月廿八日、公方様より大鯛二枚、平威拜領、ねん

ごろに御尋ねの由、又昌虎へ御文(三)

十六甲戌日 陽霽

1. 又昌虎へ贈物

2. 主馬以下重臣等、平威が公方様より御着拜領の祝儀

のため登城

3. 飯詰村十次郎の不届の儀、越山申べき旨の書状を碓

ヶ朝横日へ

4. 養金子一簾、酒井雅樂守より

十七乙亥日 陽少風

1. 式日 寄合

2. 検地打、代官、役付仰付

3. 仙台領小行溪の材木の件にて御礼

4. 獺虎一枚、相良遠江守へ

十八丙子日 陰雨

1. 鱒ヶ沢沖口横目仰付

2. 右同所河筋巡檢仰付

3. 火付狼藉の村人三人磔刑申付く

十九丁五日 賜

1. 樋口右征門、百姓長次郎の専を刑殺別首

廿戊寅日 賜

1. 庄兵江と同行の勢ヶ沢巡檢の者歸る

2. 高倉善右征門登城

廿一己卯日 賜風

1. 勢ヶ沢河筋之儀につぎ工藤佐五左征門を江戸へ發定

せしむ

2. 寄台所へ各々、出座

3. 平八郎登城

廿二庚辰日 賜

1. 棟方十左征門より御用之小箱、差登慶由、工藤佐五

左征門持参と途中より飛脚

2. 式日寄合

3. 花田伊兵江、御用物書役の普詞

4. 嶋村龜千代家来不届に付碓ヶ岡より越山申遣す

5. 左門内室、世子平産

6. 主馬登城

廿三辛巳日 賜

1. 贈物(三)吉良上野助へ

廿四壬午日 賜

1. 唐牛八郎左征門昨晩下着、今朝登城

2. 平八郎、大道寺次郎市登城

3. 銀子十枚、祐二、久保金右征門へ(他一)

廿五癸未日 賜

1. 唐牛与右征門登城

廿六甲申日 賜

1. 森内市左征門家来任氣致、女房を斬、穴落の由、吟

味せしめたるころ、三廓の内を突破りたる風説あり、當番二名内門

2. 新町善兵江、志き奉行留左征門二人、銅山勤務良く

褒美 十俵

3. 銀子二枚、福田五左征門

4. 同一枚、金三歩 才子三人江

右毗門主様御振舞の時のために遣せる

廿七乙酉日 賜

1. 式日寄合

2. 主馬、平八郎、次郎市、善右征門登城

3. 石河村百姓次五兵江、廿三日棟方十左征門の大工小

屋に火を付けし政略に申付く

4. 駒越源兵右征門、密通の兄城尋ね、松山玄三宅に入

り狼藉、劍首せしむ

5. 錢一貫文宛、三戸次左征門、口のき七兵江、棟方

十左征門家来慶兵江につかわす。

右次五兵江火付の折、消火の上、搦捕つて褒美

6. 5. 13 御刃調(八項)長内大次右征門承る

14. 蛇一折一盃、酒井雅彥頭へ

廿八丙戌日 賜少風

廿八丙戌日 賜少風

1. 恒例の御礼・諸士記帳

2. 十七日巻の江戸よりの飛脚着

3. 之冒院へ書面一通

4. 庄右征門へ右同

5. 通老名源左征門、江戸にて酒狂い、不届につき知行

取上、追放

6. 平八郎組小田相善左征門病氣故暇願

7. 素寛赦免の願、御法事の御係に申請の予定の由

8. 松前兵庫方へ当領米の売捌について

9. 庄右征門登城

10. 栗田仁右征門、神惣左征門江戸より下着

廿九丁亥日 晴風

1. 左内組横山石助陰居願

2. 御同人魚忌明登城

延宝三年五月

一戌子日 晴

月番 北村彦右征門

1. 恒例の御礼・諸士記帳

2. 横方十左征門内室、男子平産

二己丑日 陽少風

1. 式日寄合

2. 伊勢宮に於て雨を祭申付、油布庄左征門出席

3. 大道寺次郎市登城

三庚寅日 晴少風

1. 大感奉行三人、米夏松相仕廻

2. 大内蔵へ例年の如く端午帷子書状を贈る(他一)

4. 55瑞午の贈物、酒井稚染頭へ(同五三)

四辛卯日 霽

1. 平八郎登城

五壬辰日 晴 小風

1. 御式法の如諸御礼

2. 所々張番、其頭より申付

六癸巳日 陰雨

1. 大道寺次郎市組、木村、中田兩人區塞の所赦免

2. 之保田市郎左征門、馬出願

3. 瑞午御礼樽代記帳

4. 批把一箒 酒井稚染頭へ

七日甲午日 晴少風

1. 式日寄合

2. 藍藤庄兵征、物書三上伝右征門召連、赤森へ

八乙未日 晴

1. 飛脚三人、九日振江戸着を発足せむ

2. 山形の小平次へ紅花代金入小箱、右飛脚へ

3. 在々田地用水不足につき、百次寺へ雨を祭執行の旨

書面にて申のかわす

九丙申日 晴

1. 在々用水之無に付、長勝寺江雨を祭執行被可旨、新
屋縫之亟を以申達す

2. 信濃へ登るにつき円徳院へ帷子等を贈る
十一日 晴雨 大雨

1. 主馬登城

十一 戌戌日 雷雨 (記事なし)

十二 己亥日 晴霽

1. 式日寄合

2. 平八郎登城

3. 新屋継之助、他三名に銅山見分

4. 大湯三太左衛門、江戸へ使者として松馬の件

十三 庚子日 晴暘

1. 先日の雨乞の褒美として百沢寺へ銀子二枚

2. 大道寺次郎市登城

3. 贈物 阿部播磨守へ

4. 銀子十枚、西福寺へ、右阿部播磨守法事相勤めしたる

5. 金 菊屋京古へ

十四 辛丑日 晴 (記事なし)

十五 壬寅日 金

1. 恒例の御礼、諸士記帳

2. 庄兵狂青森より帰る

3. 銅山へ罷越の新屋継之助帰る

十六 癸卯日 晴雨

十七 甲辰日 晴雷 霽風

1. 式日寄合

十八 乙巳日 晴

1. 贈物 酒井雅衆頭へ
十九 丙午日 霽 晴

1. 又昌院久渡寺へ参詣

2. 藤崎村長平次、村市村角助ひさきと申銅山見立、御

山祝として歳米十俵つかわす(二)

4. 田四月廿六日女三宮逝去

5. 今月三日阿部豊後守死去、諸大名登城の由、飛脚、

廿 丁未日 霽 晴

1. 弘前町荒米日を造つて高値故、青森江下るの米、波

岡で差留べしと、米留役仰付

2. 泰庵へ書一函

3. 平八郎、大道寺次郎市、高倉善右江門登城

廿一 戊申日 晴

1. 棟方十左衛門より御用荷物差登について小知行四人、

書状差添へ十一日振に江戸に着すべしと申付、立たす

荷物の竟(二)

4. 左内登城

5. 寄合所に於て稽古拍子

廿二 己酉日 晴 霽 晴

1. 式日寄合

廿三 庚戌日 晴 霽

1. 主馬病氣本腹登城

2. 平八郎、大道寺次郎市登城

3. 波岡米留役普詞

4. 大向越沖口で鯨寄り、とらえ、村中へつかわす

廿四辛亥日 暎 雷電大雨

1. 左門登城

2. 依舛に隠居の藩外、雨請依頼しところ、今日より明

日まで修行すべき旨申来につき供物等をつかわす

廿五壬子日 暎 雷

1. 堀越より参りし次右征門不届につき追放

廿六癸丑日 暎 雷

1. 平八郎登城

2. 馬一疋 酒井稚業頭へ

廿七甲寅日 暎 風

1. 式日寄合

2. 野内番所がせまい故、さしかけの度旨申出るにつぎ

申渡す

3. 同所古井修補、灯油紙相調うの件

4. 依舛村藩外の雨乞の効ありし故銀三枚遣す

5. 3. 8. 贈物 諏訪部考兵衛外

廿八乙卯日 暎 少風

1. 恒例の御礼、諸士記帳

廿九丙辰日 暎 暎

世丁巳日 暎

延宝三年六月

一戌午日 暎

月番 進藤庄兵衛

1. 恒例の御礼、諸士記帳

2. 小隊差一暎 銘信長 内田玄泰へ

二己未日 暎 栗

1. 式日寄合

2. 江戸屋敷番人四人江戸へ発足、戌合出金三百六十両

相渡し登らす

3. 越後之貞四兵衛と申す者濃蔭蔽へ忍入り、則時堀埔

り、碓ヶ淵より越山

三庚申日 暎 粟 (記等なし)

四辛酉日 暎 風

1. 在々日損之患有り、本行寺へ雨請祭仰付

2. 同じく、又渡寺へ仰付

3. 五日廿三日江戸発の飛脚着

江戸米値銀(四)

8. 五月廿二日、平蔵、公方様より朝拜領

9. 今日、馬献上、首尾よし

右之通り飛脚申来る

10. 参勤留守中の年改、節句の御親式の儀

11. 本村茂右征門隠居願

12. 青春の火事、庄兵衛見分

13. 町方の不届者、碓ヶ淵より越山を命ず

14. 鍋盗人、斬罪

15. 螺一折廿

酒井稚業頭へ

16. 芳野葛、一斗入一

阿部播磨守へ

五 壬戌日 晦雨

1. 牧太多右征門家来甚三郎、不届につき追放

2. 5. 献上清蔵の事(四)

3. 平蔵、公方様より大綱拜領

六 癸酉日 晦 霰

1. 新鋪蔵立の件

2. 三世寺、板屋野木御蔵破壊、修理申付

3. 螺十 渡部大福并へ

七 甲子日 晴

1. 式日寄合

2. 最勝院の知行物成代銀の件

3. 青森の火争は下米町より浦町箇百五十軒焼失

4. 青森の火争の用心に小知行組頭等派遣

八 乙丑日 晴

1. 鞆ヶ沢へ船着岸の竟

2. 九日振の江戸着の飛脚出發

九 丙寅日 晦 霰

1. 外崎嘉右征門家来、跡兵征虎田地代銀過分盗取刎首

2. 松平和泉守へ贈物

伝通院に於ての法事の御悦びとして

十 丁卯日 晦 大雨

1. 御歩行二名江戸詰登につき御番具足注文

2. 中村直平家来不届につき礎ヶ南より追放越山

3. 御台様江平蔵儀献上

4. 8. 絵師に金品下さる(五)

十一 戊辰日 晴 (記事なし)

十二 己巳日 晴

1. 式日寄合

2. 唐牛八郎左征門家来不届につき礎ヶ南より追放越山

3. おむめ殿へ平蔵より、構三袋

十三 庚午日 晦 雨風 (記事なし)

十四 辛未日 晴 (記事なし)

十五 壬申日 晴

1. 恒例の御礼 諸士記帳

十六 癸酉日 晴 霰 (記事なし)

十七 甲戌日

1. 式日寄合

2. 比内大次右征門不届につき礎ヶ南より追放越山

3. 岡文左征門、成田七郎右征門より、城米輸送無事蒙

質着の書状

4. 田中久左征門より、大津、京買米相場写(十粍所)

5. 上方蓼作能、切米半分麥の処、今夏より全部米で

6. 大田寺味日下着、湯殿山住蓮院の御守札

十八 乙亥日 (記事なし)

十九 丙子日 晴

1. 本行寺へ雨請の褒美

2. 左京領、田沢の留捨山火争、火争留に、青森より火

消援助

廿五日 陽 (記事なし)

廿一夜 寅日 陽霞

1. 八日 江戸登の飛脚二人着

廿二日 卯日 陽

1. 式日 寄合

2. 外 浜奥内、出火

3. 又 保田市 郎左 江門組 小頭 江戸に於て 欠落

4. 江戸にて 足輕 三人 不足、差替りす

5. 去年 八月 八日 付の 鼓賀 東 浜 町 惣中より 注文の本のな

い旨の 訴訟状

廿三度 辰日 陽

1. 九日 振 江戸 着の 飛脚 二人 出寄

2. 病氣 養生にのき 手当 区納の件

廿四日 辛日 陽 蒙

1. 寄合所に於て 稽古 拍子

2. 毗門主へ 林檎 一籠

廿五度 壬日 陰 雨

1. 阿部 權磨 守へ 宛十五 (他三)

右、山鹿 甚五左 江門 赦免之時に

廿六度 未日 雨

1. 宛十五 酒井 藩 楽頭へ

廿七日 申日 陽

1. 式日 寄合

2. 大鷲 湯川 原の 薬師 堂 木佛 一 体 紛失

3. 猿 賣 村 米 盗 人 三 人 斬 罪

廿八度 酉日 陽

1. 恒例の 御礼、諸士 記帳

2. 十八日 江戸 登の 飛脚 着

廿九度 戌日 陽

1. 中野 村 瓦 三 部 追 放、廿四日 米 盗 人 の 着

2. 上方 廻 米 販 賣 祈 願、餘り 米 漬 入 膳 宮 へ 祈 願

延 望 三 年 七 月

一丁 亥日 陽

1. 恒例の 御礼、諸士 記帳

二丁 子日 陽

1. 式日 寄合

2. 報恩 寺 護 摩 堂 建 立 に つ き 大 丸 太 入 用 の 件

3. 郡 奉 行 の 年 代 下 命

4. 勝々 次 役 人 下 命

5. 蘭 米 代 金 の 渡 人 失 念 の 両 名 追 懸 仰 付

三丁 丑日 陰 風

1. 南 部 領 大 畑 山 火 事 の 由

2. 江 戸 着 材 木 船 上 衆 の 者 誓 詞

3. 恵 日 院 へ 林 檎 一 籠 (他三)

右、七 夕 の 御 祝

四度 寅日 陰 雨

1. 御 番 具 足 繕 奉 行 誓 詞

2. 江戸御台所荷物登りの荷事領後下命

五辛卯日 晴 雨

1. 恒例年、華秀寺にて昨晚より施餼餽仰付(二)

六壬辰日 晴 雨

1. 去月廿二日江戸籠の三名到着

2. 平八郎登城

七癸巳日 雨

1. 式法の如く御礼

2. 所々張番

八甲午日 晴

1. 寄合所へ各々出座

2. 十日振飛脚三人江戸へ

鷹鷹御厄について

3. 榊川素庵及重臣の駕と、鷹の許可について

4. 献上品

5. 所々贈物(三五)

九乙未日 晴 小風 雷

1. 土井能登舟へ大鯛(他二)

右御姫様縁辺、祝儀

4. 桂林院へ小判、帷子

十丙申日 晴 雨雷電

1. 六月廿六日江戸籠の飛脚着

2. 文盲院へ文箱等

3. 藩主、桂林院より書簡

4. おむめ殿へ乾十(他一)

十一丁酉日 晴 雨雷

1. 昨日の飛脚により、山寛素行救放の儀

2. 勤務志望を叶えらる

3. 緩紐許可

4. 紫鹿毛献上について

十二戊戌日 晴 霰

1. 式日寄合(他一)

3. 小野吉兵衛へ贈物

十三己亥日 雨

1. 恒例年、如く長勝寺、報恩寺にて今晚より施餼餽

十四庚子日 晴 (記事なし)

十五辛丑日 晴 雨雷

1. 例年の如く、真昌寺にて昨晚より施餼餽

2. 又昌院本朝、長勝寺、報恩寺へ仏参

3. 渡辺詮五右衛門家来長七、不届につき直放

十六壬寅日 晴

1. 主馬登城

2. 贈物、酒井雅楽頭へ(他一)

十七癸卯日 晴

1. 式日寄合(他一)

十八甲辰日 晴 (記事なし)

十九乙巳日 晴

1. 左門登城

2. 去る九日江戸発の飛脚着

3. 文昌院、素庵へ御書各一通

4. 桂林院より庄右江門へ書、小箱

5. 駒改めのため外浜へ四名を派遣

6. 江戸にて斬罪の小人頭代人を任命

廿丙午日 雨

1. 高屋五兵衛、全兵右江門登城

2. 江戸町米、金一兩に付六斗二升、兩替五十九匁二分

3. 大豆金一兩に付、一石三斗六升

4. 長病又の足輕区上の件

5. 聚恩寺護摩堂建立願

6. 8. 跡式、誓の件(三)

9. 青森火事、火元又右江門、入寺の件

10. 廻南村兵助、江戸御屋敷逃散、穿鑿の向、妻子入牢

の件

11. 外浜奥内山火事、消火の件

12. 御役御免の吟味仰付

13. 江戸に於て御小人を処断の罪科之算(五)

廿一丁未日 晴

1. 文昌院、庄右江門へ

2. 贈物、酒井雅泉頭他二

廿二戊申日 晴

1. 左門登城

2. 式日寄合

3. 江戸詰の馬、指氣につき、御用に立付す

4. おむめ殿へ、平威より赤梨子一籠

廿三日酉日 晴 雨

1. 十一日振江戸着の飛脚を

廿四庚戌日 晴 霽

1. 仙台の市大夫と申浪人者、昆利支丹改人、吟味の上

追放

廿五辛亥日 晴

1. 江戸屋敷にて不届の者、知行取上

2. 初姓、献上

3. 贈物(二)

廿六壬子日 晴 風雨

1. 寄合所にて舊古拍子

2. 5. 贈物(四)

廿七癸丑日 晴

1. 式日寄合

2. 江戸にて不届の者、領内に紛入り堀捕つたので斬罪

申請

3. 7. 贈物(五)

廿八甲寅日 晴 風雨

1. 恒例の御礼、諸士記帳

廿九乙卯日 晴 雨

1. 芝菴昨夜食中毒、松山玄三葉書上、快方

2. 棟方十左衛門、拜領屋敷へ本日移転
3. 贈物 酒井雅衆頭へ
廿四辰日 晴 霽 (記事なし)

延宝三年八月 月番 進藤庄兵衛

一丁巳日 晴時雨

1. 恒例の如く諸士御礼

2. 奥田善之丞進取

二戊午日 晴

1. 帶刀、高倉兵右衛門登城

2. 初栗京対一升、大沢村次郎右衛門献上す

三己未日 晴

1. 主馬、帶刀登城

2. 武者屯前の堀破壊、普請入用之覚

四庚申日 晴

1. 百沢寺へ風災なきよう祈願せしめ、その初尾の代り

として白銀二枚、他を遣す

2. 左内登城

五辛酉日 晴 霽 (記事なし)

六壬戌日 晴 風

1. 昨日暮江戸より飛脚着

2. 桂林院より又昌院へ始めて進物

3. 安全祈請の札を登せ居ることに對する謝意の手紙(最

勝院あて)

4. 年忌に對する香奠料の記事

5. 一内平産の場合の祝儀について

6. 左内登城

七癸亥日 晴 風

1. 式日寄合

2. 平八郎登城

八甲子日 晴 晴

1. 飛脚二人江戸へ出発

2. 帶刀、平八郎登城

三、本島備前守の材木、今別より出船

九乙丑日 晴 雨

1. 商売水の相馬を決めていたが、新米も出廻り下り値

になつたので、前のように相對で商売してよい旨、

町奉行へ申渡す

十丙寅日 晴 地震

1. 帶刀、平八郎登城

十一丁卯日 晴

1. 先日の桂林院より又昌院への進物の御礼参る

十二辰日 晴 風霽

1. 式日寄合

2. 比内の金七、三人連で馬二疋盗む、碓ヶ岡横目方へ
越山状

3. 外浜上機中次村虎之助、館町の家へ忍入り、布その
他を窃盗のかどで追放

4. 黒石町四五兵征、七月十四日朝林吉右征内納屋へ入
り、詮議の結果、気遣いということ追放

5. 左門の家来不届のかどで斬罪

6. 花島の子戸、わく敷八十三、水わきのほ二ヶ所

7. 土岐庄助支配の細工人、勘定滞滞につき置棄

8. 小人助十郎の上家を黒石佐五征内へ貸渡す

十三己巳日 賜

1. 主馬、帶刀、平八郎登城

2. 庄兵征之朝青森へ

十四庚午日 庵

1. 鞍賣より六月五日の書状到着、城米船無等着岸の由

と、米相場銀十匁につき一斗五六分の由を知らす

十五辛未日 庵 雷風 賜

1. 恒初の如諸士の御礼

2. 庄右征内登城

3. 笹村与四兵征、他一人を上野の麦島割渡役人に任命

4. 桐丈蔵と申す大頭舞仕女太夫が来弘、十五日より五
日内勸進舞を許す

(八月十六日 申日)

(八月十七日 癸酉日)

十八甲戌日 庵 風雨

十九乙亥日 賜

(欠) 点羽 (此十六日、十七日重而本
書見出し付可申事)

(記事なし)

1. 唐牛八郎左征内江戸へ出發

2. 和徳町左征内、備石征内派で茄子を盗み、その上、
富士を斬る、また宿川原より徒者を集めて盗みの和
談をしているかどで、斬罪に処せらる。

3. 宿川原の小五郎と勘四郎、盗みのかどで斬罪

4. 黒崎村長左征内馬を盗み、比内に出る所を早瀬野番
所で捕えられ、今日斬罪

廿丙子日 賜

1. 寄合所で能の稽古

廿二丁丑日 賜

1. 初種若黄鷹一居を小瀬山にてはなす

2. 江戸より飛脚着

3. 文島院へ書状一通

4. 庄右征内へ書状一通

廿二戌寅日 庵 初霜

1. 式日寄合

2. 帶刀登城

3. 鷹を登す

4. 若黄鷹一居を大沼で留む

5. 求着大坂より砂五俵を下すにつぎ、取扱いを入念に
すべきことを青森、十三、鞆ヶ沢の役人へ命令

廿三己卯日 庵 雨

1. 藩士三名の住宅建築を許可

(文責 荒井清明、蛸名庸一、小館衷三)

(記事なし)

(記事なし)

(記事なし)